

アカン語の情報構造と名詞述語文
Information structure and nominal predicate sentences in Akan

古閑 恭子¹, ダニエル・アーチャンポン²
Kyoko Koga, Daniel Acheampong

¹高知大学人文社会科学部
Faculty of Humanities and Social Sciences, Kochi University
²株式会社オートネット
Autonet Co., Ltd.

要旨：本稿はアカン語の情報構造と名詞述語文に関する資料を提示する。データ収集には『語研論集』第25号の英語版調査票(8.「情報構造と名詞述語文」)を使用した。

Abstract: This article provides Akan data collected by using the questionnaire ‘Information structure and nominal predicate sentences’ designed by Kazama (2020) in the *Journal of the Institute of Language Research* vol. 25.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001488>

キーワード：アカン語, 情報構造, 名詞述語文

Keywords: Akan, information structure, nominal predicate constructions

1. はじめに

アカン語はガーナ共和国に話されるニジェール・コンゴ語族クワ語派に属する言語である。アサンテ, アクアペム, ファンテ, アノマボ・ファンテ, アブラ・ファンテ, アチェム, アゴナ, アセン, ダンチラ, クワウ, ゴムア, アハフォ各方言に下位分類される(Eberhard, Simons, and Fennig 2020)。ここで対象とするのはアサンテ方言である。データ収集は、『語研論集』第25号の英語版調査票を使用し(8.「情報構造と名詞述語文」), 第2著者アーチャンポン(男性・35歳, アシヤンティ州マンボン出身)が, 各例文に相当する, あるいは類似, 関連するアカン語文を口述し, 第1著者古閑が記録する形で行った。必要に応じて, 具体的用法や使用場面など, アーチャンポンによる説明も記載した。

2. 資料

- (1) a. twén, Kwaáme ba-e?
wait.IMP Kwame come-PST
待って, クワメが来たの?
- b. daabí, ε=n-yé Kwaáme. é!móm Kofi.
no INAN=NEG-COP Kwame but Kofi
いや, クワメじゃなくて, コフィだよ。
- b'. daabí, Kofi na ɔ=ba-e.
no Kofi FOC 3SG.SUB=come-PST
いや, コフィが来たんだ。



アカン語において、焦点は焦点標識 *na* を後続しかつ文頭に置かれることによって表され、また述語頭 1 音節の低から高への声調変化を伴う。焦点要素は主節で本来の位置に照応接語として現れる。対比焦点（主語）は焦点構文(1b')で表す。(1b)「～ではなく…だ」も自然な表現である。

- (2) a. hóán na ε=bá-ayé?
 who FOC INAN=come-PST
 誰が来たの？
- b. Kofi na ε=bá-ayé.
 Kofi FOC INAN=come-PST
 コフィが来たよ。
- b'. ε=yε Kofi.
 INAN=COP Kofi
 コフィだよ。

WH 焦点は主語、目的語に関わらず典型的に *na* 焦点化される(2a)。WH 応答焦点も *na* 焦点化される(2b)。また(2b')も自然である。

- (3) a. Kofi n-wá?
 Kofi NEG-tall
 コフィの方が大きいんじゃないの？
- b. daabi, Kwaáme na ε=wá.
 no Kwame FOC INAN=be.tall
 いや、クワメの方が大きいんだよ。
- b'. daabi, Kwaáme wa.
 no Kwame be.tall
 いや、クワメが大きいよ。

形容詞述語応答焦点も焦点構文(3b)で表すのが自然だが、基本構文(3b')も可能である。

- (4) a. déén na e=si-iyé?
 what FOC INAN=happen-PST
 どうしたの？
- b. obí á-!bá há.
 someone PRF-come here
 人が来たんだ。

文焦点（自動詞文）は基本構文で表される(4b)。

- (5) a. akorá=nó na ε=bó-ɔ Kofi?
 child=DEF FOC INAN=beat-PST Kofi
 あの子供がコフィを叩いたんだって?
- b. daabí, ε=n-yé Kofi na Kwaáme.
 no INAN=NEG-COP Kofi CONJ Kwame
 いや, コフィじゃなくてクワメだよ.
- b'. ε=yε Kwaáme na ε=bó-ɔ=no.
 INAN=COP Kwame FOC INAN=beat-PST=3SG.OBJ
 クワメを叩いたんだよ.
- b''. ɔ=bɔ-ɔ Kwaáme.
 3SG.SUB=beat-PST Kwame
 クワメを叩いたよ.

対比焦点が目的語の場合は「～ではなく…だ」(5b), あるいは分裂文(5b')で表すのが最も自然である. なお, (5b')から $\epsilon y\epsilon$ を取ると焦点構文となり, そのため焦点標識 na は本来等位接続詞で, 焦点構文は分裂文に起源があると見られている(Amfo 2018: 257). 基本構文(5b'')も可能である. 目的語は本来焦点性を持つため, 焦点化しなくても良いと考えられる.

- (6) a. ntoma fúfúó né kòkòó na ε=wó hó.
 cloth white CONJ red FOC INAN=exist there
 白い布と赤い布がある.
 deε ε=wɔ hɛ́ na wó=bé=tó?
 that.which INAN=exist where FOC 2SG.SUB=FUT=buy
 どっちを買う?
- b. me=bé-tó fúfúó=nó.
 1SG.SUB=FUT-buy white=DEF
 白いのを買うよ.
- b'. fítáá=nó na me=bé-tó.
 white=DEF FOC 1SG.SUB=FUT-buy

「どちら」は $de\ \epsilon w\ \hbar\acute{e}$ 「どこにあるもの」と表現する. この準疑問詞疑問文も焦点構文で表す(6a). この場合, 応答は(6b')のように焦点構文も可能であるが, 基本構文(6b)が最も自然である.

- (7) a. Kwaáme wɔ hɛ́?
 Kwame exist where
 クワメはどこですか?
- b. Kwaáme kɔ-ɔ baabí anɔpá=nó.
 Kwame go-PST somewhere morning=DEF
 クワメは朝からどっかへ出かけたよ.

述語焦点は基本構文で表す.

- (8) a. hóán na ε=bó-ɔ=nó?
 who FOC INAN=beat-PST=3SG.OBJ
 誰を叩いたの？
- b. ɔ=bɔ-ɔ né=!núá.
 3SG.SUB=beat-PST 3SG.POSS=brother
 自分の弟を叩いたんだ.
- b'. né=!núá na ɔ=bó-ɔ=nó.
 3SG.POSS=brother FOC 3SG.SUB=beat-PST=3SG.OBJ
 自分の弟を叩いたんだ.

WH焦点（目的語）を焦点化する。WH応答焦点は基本構文，焦点構文ともに自然である。

- (9) a. déén na e=sí-iyé?
 what FOC INAN=happen-PST
 どうしたの？
- b. aa, Kofi á-bɔ ní=!núá.
 ah Kofi PRF-beat 3SG.POSS=brother
 ああ，コフィが弟を叩いたんだ.

文焦点（他動詞文）は基本構文で表す。

- (10) a. déén na á-tó aduané=nó?
 What FOC PRF-meet food=DEF
 あの食べ物，どうした？
- b. Kwaáme a-dí.
 Kwame PRF-eat
 クワメが食べちゃったよ.
- b'. dí na Kwaáme á-di.
 eat FOC Kwame PRF-eat
 クワメが食べちゃったんだよ.

疑問文は疑問詞 déén「何」を焦点化した構文である。応答文で目的語が現れないのは，無生目的接語は基本的に現れない（ゼロ）ためである。なお，(10b')のように述語を焦点化した表現も可能である。

- (11) a. ε=yε nwómá=yí na me=tó frí-i Kínswei nnórá=nó.
 INAN=COP book=this CONJ 1SG.SUB=buy come.from-PST Kingsway yesterday=DEF
 私が昨日キンズウェイで買ってきたのはこの本だ.
- b. nwómá=yí na me=tó frí-i Kínswei nnórá=nó.
 book=this FOC 1SG.SUB=buy come.from-PST Kingsway yesterday=DEF
 この本が，私が昨日キンズウェイで買ってきたのはこの本だ.

分裂文(11a)は焦点構文(11b)でも表される。このようなことから焦点構文は分裂文から派生したと

考えられる.

- (12) papá=nó ye okyerekyérení. ɔ=a-kyéré adéé wɔ sukúu=yí mú mfe
 man=DEF COP teacher 3SG.SUB=PRF-teach thing be.in school=this in years
 aduonú ní.
 twenty so.far
 あの人は先生だ. この学校でもう 20 年働いている.

2 つめの文では主題 (名詞述語文の主語) papá=nó に照応する 3 人称単数接語が現れ, これを省略することはできない.

- (13) né=!sé [né / ?ye] papá=nó.
 3SG.POSS=father COP man=DEF
 彼のお父さんは, あの人だ.

- (14) papá=nó [ye / né] né=!sé.
 man=DEF COP 3SG.POSS=father
 あの人が彼のお父さんだ.

アカン語には ye と né の 2 種類のコピュラがある. né が使われる場合, 主語は述語と一致するか, 述語の性質を完全に包摂する. 同定文(14)においては ye が自然だが né も使える. 一方倒置同定文(13)では né が自然で, ye はおかしい.

- (15) a. 'asatte' [ye / né] edá a e=dí okyénaákyí.
 COP day REL INAN=mean day.after.tomorrow
 「明後日」は明日の次の日という意味だ.
 b. edá a e=dí okyénaákyí [né / ?ye] 'asatte'.
 day REL INAN=mean day.after.tomorrow COP
 明日の次の日は「明後日」だ.

定義文では ye と né どちらも使える. (15a)では ye がより自然である. なお語順を変えた(15b)では ye は不自然である.

- (16) a. me=bé-nóm kófe.
 1SG.SUB=FUT-drink coffee
 私はコーヒーだ (コーヒーを飲む).
 b. Kwaáme bé-nóm bea. mé dee, kófe.
 Kwame FUT-drink beer 1SG TOP coffee
 クワメはビールを飲む. 私はコーヒーだ.

アカン語ではウナギ文のようなコピュラ文はなく, (16a)のように動詞文で表す. あるいは(16b)のように対比的に mé を主題化し, 「私は, コーヒー」のように言うこともできる.

- (17) kófe yε mé=!dǎá.
 coffee COP 1SG.POSS=thing
 コーヒーは私だ (私のだ).

「コーヒーは私だ」のような逆行ウナギ文も存在しない。「私のものだ」と言う。

- (18) nwómá fǒ!fǒró keséé=nó bóó yé den.
 book new big=DEF price COP hard
 その新しくて厚い本は値段が高い。

名詞を修飾する2つ以上の形容詞は、つなぎを入れずに名詞の後ろに連続して現れる。述語の形容詞はコピュラ yε を挟んで現れる。

- (19) a. éi, yε=así!kyíré á-sǎ!
 hey 2PL.POSS=sugar PRF-run.out
 あれっ、砂糖が無くなっている！
 b. éi, ye=n-ní así!kyíré!
 hey 2PL.SUB=NEG-have sugar
 あれっ、砂糖が無い！

意外性を表す特別な活用や構文はない。(19a)は sǎ 「無くなる」の完了形、(19b)は nní 「持たない」で表している。

- (20) ná ε=wǒ sé mi=hyiá obí annyumméré.
 then INAN=exist COMP 3SG.SUB=meet someone evening
 夕方、誰かに会うはずだったなあ。
 ε=yε hóán? óo, ε=yε Kwaáme.
 INAN=COP who oh INAN=COP Kwame
 誰だっけ？ ああ、クワメだ。

思い出しで用いる特別な活用や構文もない。(20)3つめの文は普通のコピュラ文である。

		略号	
á	高声調	IMP	命令
a	低声調 (表記なし. ただし単独で 音節末子音に実現する場合 ñ)	INAN	無生物
		NEG	否定
!á	ダウンステップ高声調	OBJ	目的接語
1	1人称	PL	複数
2	2人称	POSS	所有接語
3	3人称	PRF	完了
COMP	補文標識	PST	過去
CONJ	接続詞	REL	関係詞
COP	コピュラ	SG	単数
DEF	定	STA	状態
FOC	焦点	SUB	主語接語
FUT	未来		

参考文献

- Amfo, A. A. 2010. Lexical signaling of information structure in Akan. *Linguistics* 48-1. 195–225.
- Eberhard, D.M., G.F. Simons, and C.D. Fennig eds. (2020) *Ethnologue: Languages of Africa and Europe, Twenty-third edition*, Dallas, Texas: SIL International.

執筆者連絡先 : koga@kochi-u.ac.jp

原稿受理 : 2025年11月16日

刊行年月日 : 2026年3月31日